文 化 財 学 習 会

ふ　る　さ　と　探　訪

テーマ　**萩の最明寺と藤澤東畝の史跡を訪ねる**
講　師　佐野　通明
日　時　平成２９年９月３日（日）

共　催
高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

1　塩江町安原下・観月橋

香東川は三木町津柳を源とし、阿讃山脈の大滝山や竜王山に発した樺川、内場川などの支流を合わせながら、蛇行して瀬戸内海に注いでいる。二級河川であるが綾川に次ぐ長い河川である。このあたりは、高松市塩江町の北部に位置し、香東川の流れに沿って概ね国道一九三号線が走っている。周辺には高松市役所塩江支所、最明寺、教福寺、西谷八幡神社、音川城跡、塩江歴史資料館、しおのえ古民館などがある。

観月橋からは　香東川に削られた岩石と井堰、下流には大きな岩石や松風橋（吊り橋）が見える。国道一九三号線から分かれて南に進むと奥野千本桜、柏原渓谷へと続く。県道高松香川塩江自転車道の起点は観月橋の右岸で、ここから岩崎までは、ほぼ塩江温泉鉄道（ガソリンカー）の軌道跡を通っている。途中に遺構である橋梁の上を通り、香東川に沿って郷東橋へとつながっている。観月橋の下には池西幹線の関井堰があり、その水路は香東川の左岸に沿って鮎滝から香南町の高地を通り、綾川町畑田まで潤している。

周辺は山に囲まれた段々の田畑が点在し、春は新緑、初夏はホタル、秋は紅葉、萩など四季折々の景観を楽しむことができる。岩肌を流れる川のせせらぎが響き、山並みに囲まれたこの情景は、自然と共に暮らす原風景が感じられる。

2　萩の最明寺

最明寺の歴史など

行基菩薩が文武天皇の大宝元年（七〇一）に来られ、薬師如来の本尊を刻んで安置し、如意輪寺と称した。その後、嵯峨天皇の弘仁十二年（八二一）に弘法大師が来て千手観音を刻んで安置したという。また文応元年（一二六〇）に北条時頼が諸国修行の途中、ここに立ち寄り伽藍を再建して寺名を最明寺と改めたと伝えられている。天正十三年（一五八五）長宗我元親の兵火にかかった。

文政四年（一八二一）に最明寺の快明が「安原古跡物語」を増補して「安原記」を著す。

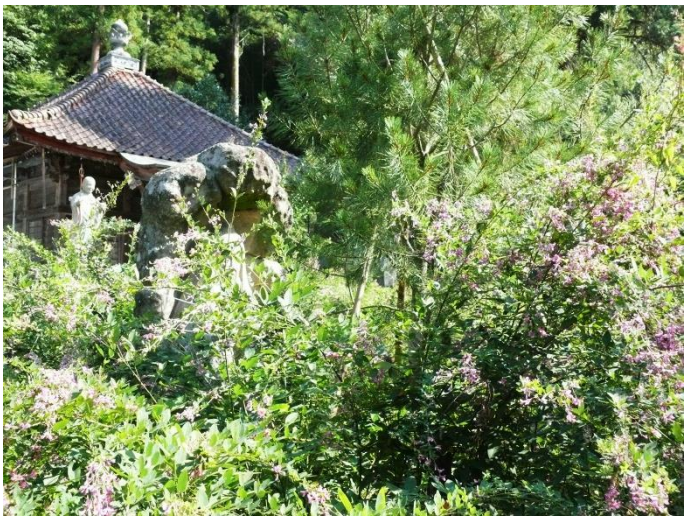
明治十二年の火災により焼失した時、この音川の地に仮に再建して移り、そのまま現在に至っている。寺宝は本尊の木造薬師如来立像、木造千手観音立像、涅槃像、両界曼荼羅、鰐口など。梵鐘は先の大戦で供出したため、昭和二十一年に境内で塩江町樺川の人びとによる「タタラ」により、鋳造されたものである。

土用の丑の日に病伏せとして「きゅうり加持」や土砂加持、流水灌頂などの行事がある。

最明寺の萩

当山第四十一世明圓により境内にあった優美に咲く「宮城野萩」を境内に株分けして、増殖に努力して萩の名所の基礎をつくった。その後第四十二世明澄に至り一層の増殖により、境内全面に繁茂して萩の名所となっている。可憐な萩の観賞のため文人墨客、茶俳人が後を絶たない。讃岐百景「萩の名所」となっている。

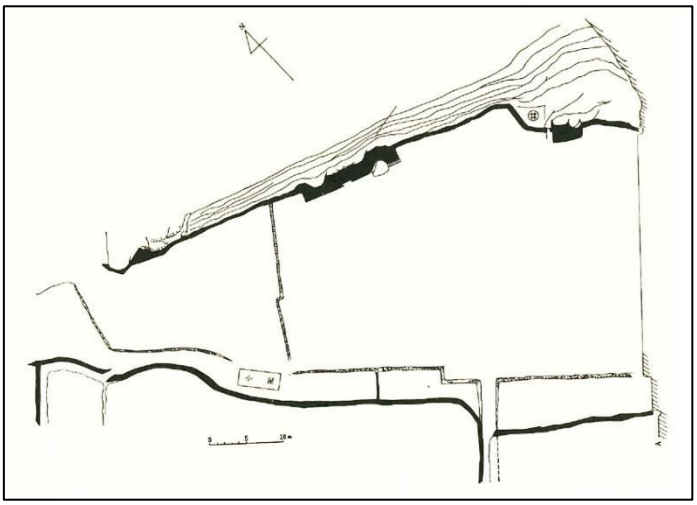
音川で　心清めて　最明寺
瑠璃の　庭にぞ　萩の花山



3　松平家の音川別荘跡

最明寺の北方百メートル余りの一段高い平地で、後ろに山を背負い、南面には石垣が見られる。東西約七十メートル、南北は西の方で十メートル、東の方で三十メートルの地とおもわれる。山際に堀が残っている。

音川の別荘は岩部の別荘とともに藩主が夏季避暑用のもので、松平頼重は早くは寛永十九年（一六四二）にここに来ている。「英公日暦」に「七月二十二日香東川へおいでなさられ、道にて鳥三つ鉄砲にて遊ばされ、それより香東川にて鮎御取り、音川まで御座なさられ、夜五つお帰り、御殺生の鮎七百ほど也」とある。また承応二年（一六五三）には「音川に遊び新館に宿す」とある。寛文十年（一六七〇）八月には糸姫、頼母、図書、亀千代、竹松の五人の子女を連れて泊まったなどの記録があり、たびたび音川を訪れている。



音川別荘跡（『新修　塩江町史』より）

4　音川城跡・関城跡

城は標高二〇〇メートルの香東川右岸の小山の上部に築かれていた。阿波との山越えルートのひとつである塩江街道を見通す位置に築かれていた。平成十年の踏査により、曲輪、堀、土塁などの遺構が良好に残っていることが明らかになった。

この城の規模は小さいが主郭を半周する横堀が構築されており、香川県では貴重な存在であるという。この地は香東川まで小尾根が突き出て川を狭め、また見通しをさえぎっている位置に関城があり、時期は天正七年（一五七九）で対岸の音川城との呼応という点でも好適の地である。関城跡は田畑となっている

ため遺構は見られない。そして現在、関という地名が残る地点は、かつてはこの尾根裾をまいて川沿いに塩江街道が通り、そこには関所が置かれていた。

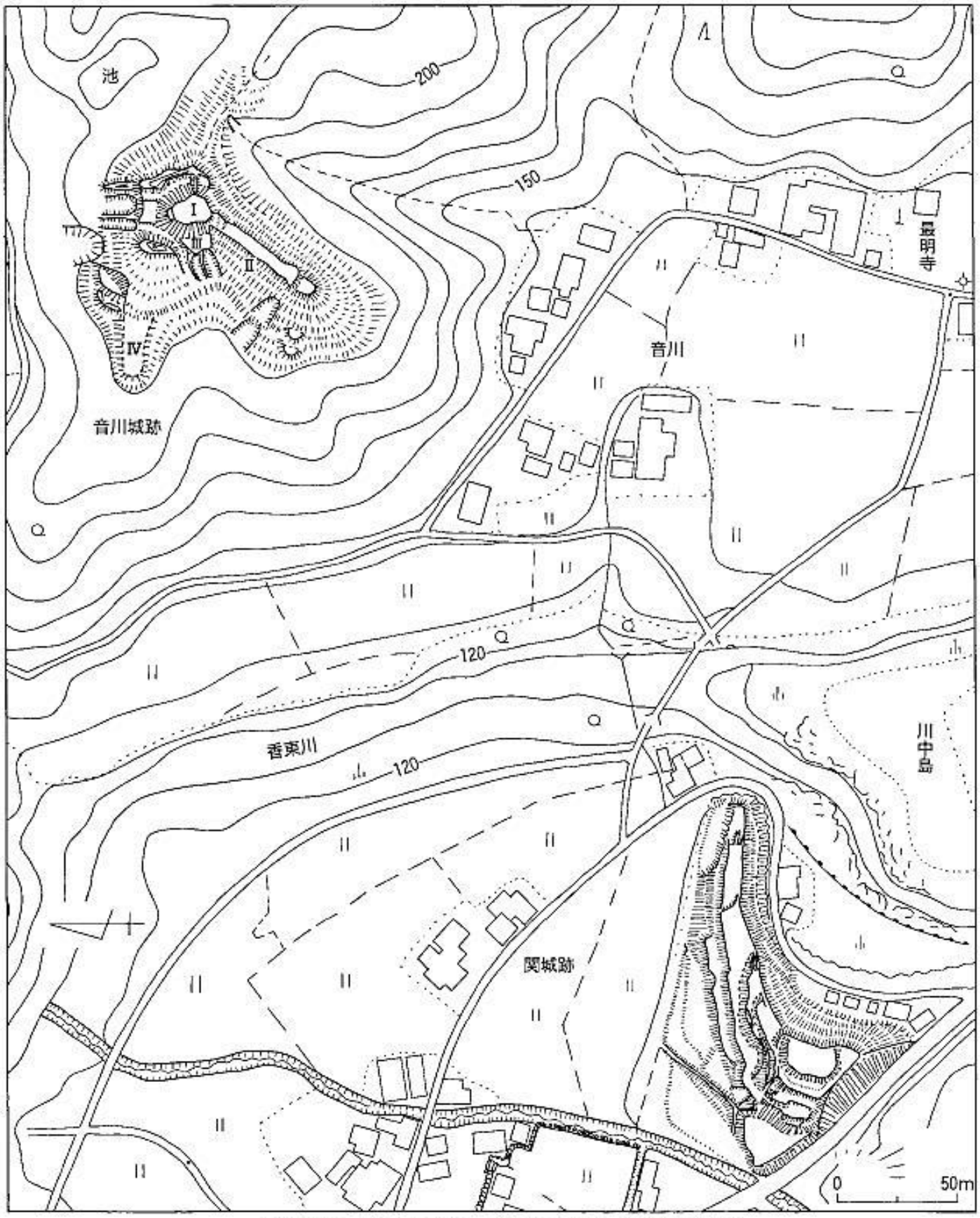
川田家の宗家景兼の子景信は川田信濃守と号し、安原下音川に移り住み、家の北方山頂に小城を築き、音川城と称し、これに拠った。景信の子景次は主膳正と号し、孫景盛は永禄四年（一五六一）に天霧山の堀江の戦いで戦死したと川田弥一家所蔵の「平姓川田氏系図」にみえる。

音川城跡

所在地　高松市塩江町安原下字音川
立地　丘陵先端　標高二〇〇メートル
　　比高　七〇メートル
現状　山林
遺構　曲輪、堀、土塁
城主　川田信濃守景信
時期　不詳

関城跡

所在地　高松市塩江町安原下字関
立地　丘陵先端　標高百三十四メートル
　　比高　十五メートル
現状　田畑
遺構　なし（田畑化、一部埋没か）
城主　川田信濃守景信
時期　天正七年（一五七九）



音川城跡・関城跡縄張り図（1/2,500、原図：松田）

【出典】香川県中世城館跡詳細分布調査報告書
平成十五年三月（2003）　香川県教育委員会

5　関所跡

塩江街道は高松城下から仏生山、塩江、内場、相栗峠越の阿波と讃岐を結ぶ重要な道であり、阿波へは讃岐米、塩や魚介類が、阿波からは薪炭、木地、藍玉などの物資の交易があり、人びとの往来も多く関所が置かれていた。関所では、手形や各種産物などの検査や監視をしたという。また、金刀比羅宮や法然寺への参詣道という宗教的な意味もあった。

寛永十年（一六三三）の讃岐国絵図には百相村―鮎滝―内場―相栗峠の安原往還が高松城下と国境を結ぶ路線としてすでに存在している。元禄十三年（一七〇〇）の蜂須賀国境絵図でも相栗峠の路線が描かれており、阿波藩にとってもこの道筋は讃岐と阿波を結ぶ重要な道であったことが分かる。関という地名もここからきているものと思われる。

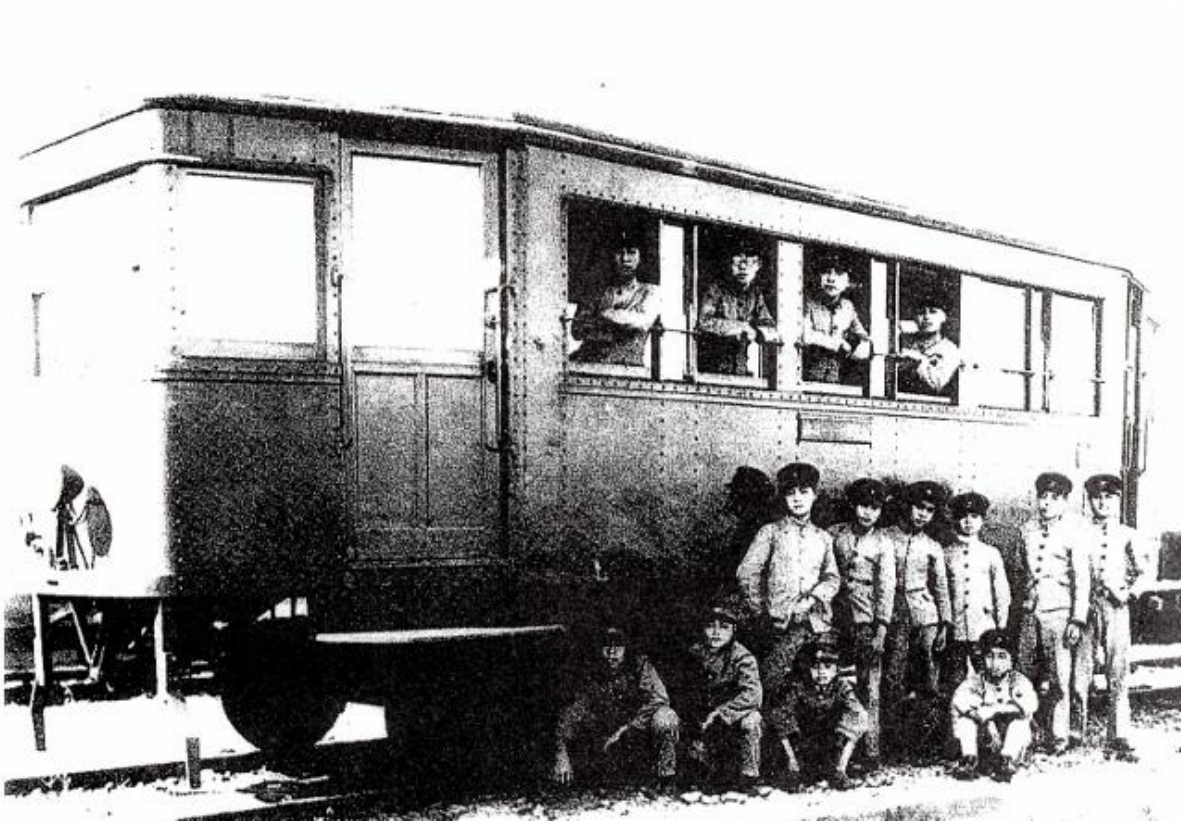
6　塩江温泉鉄道（ガソリンカー）

昭和四年（一九二九）に高松琴平電気鉄道の仏生山駅を起点として営業された。仏生山から塩江間十六・一キロメートル、運転所要時間四十分、車賃は四十銭であった。仏生山から舟岡・浅野・伽羅土・川東・岩崎・鮎滝・関・安原・中村・岩部の各駅を経て塩江を終点とした。川崎車輛で製作した車両に、米国アンドリュース・アンド・ジョージ社製のエンジンを搭載し、ガソリンカーとしては前進・後進のできる車輛であった。ガソリンカーは四十人乗り、座席はロングシート、そしてつり革があり、その小さな車体は「マッチ箱」と呼ばれていた。

定期便は一両で運行されていたが、団体客や塩江の花火大会、菊人形展、少女歌劇団の演劇など乗客の多い時には２両連結、臨時便があったという。また春は奥野千本桜、夏は蛍狩、鮎釣、鵜飼、納涼、秋は紅葉狩、キノコ狩り、冬は忘年会、新年会、大滝山のスキーなどと盛んに観光客を誘致していたという。仏生山で琴平電鉄と接続されて高松中心部との交通は大いに開け、中等学校に進学するものが急速に多くなった。しかし、昭和十六年に戦争の激化によってガソリン統制が実施されて燃料供給は難しくなり、そのうえレールなどの資材は徴発され全線廃止となった。

現在はトンネルが伽羅土、中村、小矢谷、岩部に、橋梁が関、中村、岩部などに残っている。

ガソリンカーの写真



関駅跡

ガソリンカーは仏生山から岩崎までは田園風景の広がる地域を走っていたが、岩崎からは香東川右岸沿いに山間部へと線路は延びていく。岩崎からの線路跡は高松香川塩江自転車道として整備されて観月橋に続く。香東川沿いに走っていたガソリンカーは、関で始めて香東川を渡る。渡ってまもなく行くと第二橋梁。その橋のたもとが「関駅跡」で、香東川自転車道の少し西側である。関駅跡を過ぎて再び橋を渡ると最明寺がすぐ目前。

ガソリンカーが走っていた頃は毎日のように門前市があり、特に大きな行事や萩の季節には参道前に「臨時駅」が置かれ、参拝客の人びとで賑わったという。市では綿菓子、タニシ、飴などの屋台があり、高い台を設えての餅投げ、力持ち（長尾寺の餅運びと同じもの）などがあり関駅の付近は大勢の人出となっていたという。関駅付近には臨時の自転車置場があったほどである。

7　藤澤東畝

藤澤東畝は寛政六年（一七九四）に安原下中村の地に生まれる。名は甫、雅号を東畝という。温厚で誠実な性格であった。学問を好み、六歳の頃から母に文字を教えられ、弟たちと畑の草刈をする時も鎌で土の上に文字を書いて覚えた。また、川で遊ぶ時も河原の石に文字を書きつけて覚えた。幾年にもわたって墨で書き付けたので、近くの河原の石にはほとんど文字の書き跡があったという。

九歳の頃、高松に出て香南町出身の中山城山先生の家に住み込み、家事を手伝いながら学んだ。城山先生は儒学の中でも「古文辞学派」の学者で、中国の有名な漢文を学ぶだけでなく、政治経済、日本史、中国語などにも関心の高い先生だった。

二十三歳になると中山先生の命で、西日本に学問修行の旅に出る。長州藩の「明倫館」などの塾で研鑽を積み、長崎では中国語を学んだ。二十六歳で長崎より戻って、高松で塾を開く。また、同じ年に古高松の揚分潮（分潮は製塩業者で、全国的に販売する讃岐一の豪商）の子の小四郎の家庭教師を努めた。

三十歳で大坂に出て、私塾「泊園塾」を設立し若者の教育に携わる。「泊園塾」は幕末に近づくとそれまでの朱子学では解決できないことが増えて古文辞学が注目されるようになり、様々な藩の藩主の中にも東畩を招いて講義を聞くものが現れ、有名塾となった。門人の中には後に外務大臣となる陸奥宗光、朝日新聞社社長、伊藤忠商事社長、武田薬品社長、岡山閑谷学校校長、日本大学学長などの医師、薬学家、実業家、政治家、ジャーナリスト、学者、教育者として活躍したものが多かった。

東畩は幕末になると、大いに尊王主義を唱えた。東畩が五十六歳の時に大坂に住んだままで高松藩士の資格を得た。文久年間（一八六一～六四）には藩主に従って京都に赴いた。時の幕府将軍徳川家茂は二条城で東畩と会い、幕府の儒学者として招こうとした。しかし幕府の考えとは合わず、辞退して大坂に帰り、塾で若者の育成を楽しんだ。元治元年（一八六四）、七十一歳で病没した。その教えは子孫に引き継がれる。

東畩四十八歳の時に息子の恒太郎が生まれた。恒太郎は優秀で後に「南岳」の号で東畩の後を継ぎ、塾名を「泊園書院」として大坂一の私塾となった。戊辰戦争の時に高松藩が伏見で官軍に砲撃してしまい、朝廷の敵として他藩から攻撃を受けそうになると、泊園書院の人脈を使って高松藩が許されるよう努力した。そして維新後も講道館の教員として、讃岐の若者を育成した。講道館の閉校後は大阪に戻って塾経営に励み、さらに南岳の子の黄鵠・黄坡の兄弟に受け継がれた。後に泊園書院が閉校した時にその蔵書約一万六千冊は関西大学に寄贈され、現在も「泊園文庫」として多くの学者の研究を支えている。

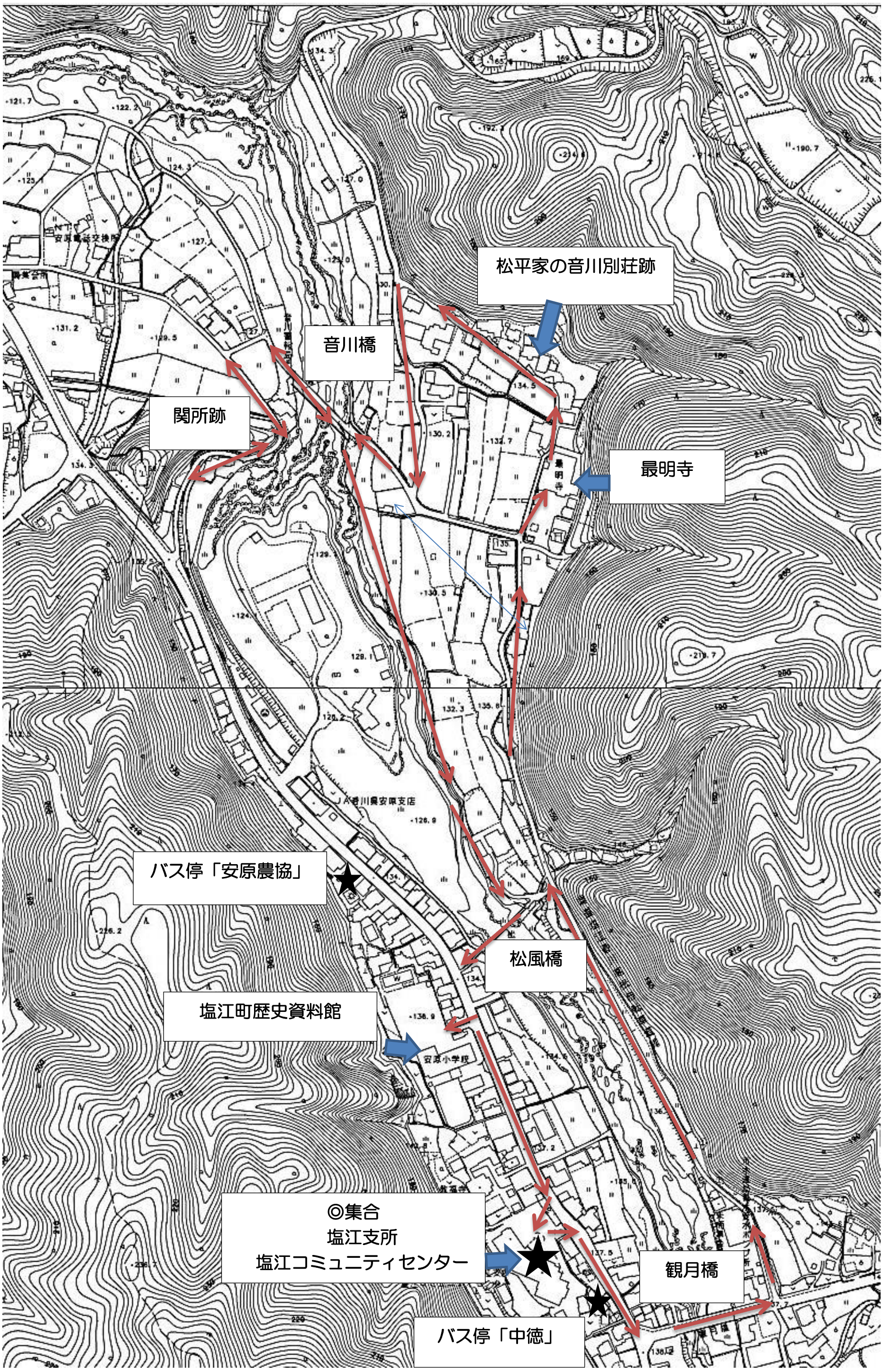
藤澤東畝頌徳碑　など

明治三十五年　有志の同志会により建立。
安原下中村
昭和三十八年　頌徳碑の所在を示す標柱を建てる。
字は東畝の曾孫で作家の藤澤桓夫の筆である。東畝百年祭として。
百年祭の記念碑　「庭闈春色新」
昭和三十八年　顕彰会が結成され、塩江町と合同で塩江中学校の校庭に建立。

塩江町歴史資料館

場　所　高松市塩江町安原下の安原小学校跡
開　館　平成二十八年十月二十三日
開館時間　土、日曜日及び祝日午前十時から午後四時まで
入館料　無料
主な資料
○　儒学者藤澤東畝及び南岳の書、書籍及び関連資料コーナー
○　旧塩江小学校及び旧安原小学校アルバム、
高松市無形民俗文化財「樺川たたら踊り」資料など
○　塩江温泉鉄道（ガソリンカー）資料
塩江温泉などの絵はがき、地域の風景写真・書籍、資料閲覧コーナー
○　企画展示（定期的に開催予定）

～ふるさと探訪９月「萩の最明寺と藤澤東畩の史跡を訪ねる」探訪コース～



参考文献

・新修　塩江町史　平成八年八月　塩江町
・塩江の四季　第四集　昭和六十二年四月一日　塩江町文化財保護研究会
・六十年のあゆみ　昭和四十五年十一月一日　高松琴平電気鉄道株式会社
・八十年のあゆみ　平成元年十二月　高松琴平電気鉄道株式会社
・琴電一〇〇年のあゆみ　平成二十四年三月一日　森　貴知
・香東川と暮らし　平成二十二年三月三十一日　高松市香川町文化財保存会
・香川県中世城館跡詳細分布調査報告書　平成十五年三月　香川県教育委員会
・萩の寺　福寿山　来迎院　最明寺
・藤澤東畝とその一族　一九九一年　塩江町教育委員会
・知の巨人　藤澤東畝展―没後１５０年記念―　平成二十五年　高松市歴史資料館
・藤澤東畝とゆかりの人たち　―塩江町歴史資料館開館記念講演会―　平成二十八年十月二十三日
四国大学　書道文化学科教授　太田　剛

９月３日（日）復路

◆ことでんバス　塩江線

（中徳）		（安原農協）		（瓦町）		（高松駅）
１１：４９発	→	１１：５０	→	１２：２８	→	１２：４１　着

※この次の便は、中徳１３：４９発、高松駅１４：４１着になります。
（安原農協　１３：５０、瓦町１４：２８）

次回のふるさと探訪は…

テ ー マ　　「公渕池周辺（東植田）を訪ねる」（予定）

と　　き　　平成２９年１０月２９日（日）

９：３０～１２：００頃

集合場所　　公渕森林公園（予定）

講　　師　　久保　征四郎（東植田コミュニティ協議会文化部長）

参 加 費　　無料

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」１０月１５日号に開催案内を掲載しますので、

御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課（TEL839-2660「午前７時３０分～開始時間まで」）で

お知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

１　交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。

（必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、

道路の端を一列で歩きましょう。）

２　無理をせず、体調には十分気を付けましょう。

３　引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。

４　マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気を

つけましょう。

５　文化財や自然を大切にしましょう。